



地域密着の 鉄道として

地域の交通手段、地域経済の活性化などを目的に、開業した三陸鉄道。これまでのさまざまな取り組みについて、振り返ってみましょう。

好調な営業状況

開業した三陸鉄道は、好調な営業状態でした。昭和59年には北リアス線に新駅の白井海岸駅が開業。翌昭和60年には、南リアス線に小石浜駅が開業しました。元日に車両から朝日を見える「初日の出号」は、昭和61年に初運転。現在も続く人気の企画となっています。普代村の旅館清雅荘が弁当の車内販売を始めたのもこの頃で、現在は久慈駅構内で販売する「うに弁当」として、こちらも今でも続く人気商品です。

厳しい10周年

平成6年、開業から10年を迎える節目の年に、三陸鉄道に危機が訪れます。2月22日、低気圧通過による強風が、沿岸に吹き荒れていました。南リアス線の小石浜(現恋し浜)〜甫嶺間の橋を走行中の車両が、強風を受け脱線転覆し、線路脇の水田に転落。事故後は、風速計や特殊信号機が取り付けられ、風速規制を強化し、再発防止が図られました。開業以来初めての赤字になることも報告され、厳しい10周年を迎えました。

さまざまな試みを実施

その後は、ラッピング列車の運行、車両のリニュー

昭和62年ごろになると、国鉄が運営する山田線の釜石〜宮古間を三陸鉄道に移管する、一貫経営が現実味を帯びてきました。しかし、国鉄が民営化し、JRへ移行する中で、経営移管を否定。一貫経営が実現に至るのは、30年以上も後のこととなります。同年には関連事業として、旅行代理店の「三鉄観光サービス」が開業し、地域とより密着した営業が進められました。車両も「三陸パノラマ号」「くろしお号」「おやしお号」などが追加。鉄道ファンの人気を博しました。

アル、各種イベントの実施など、乗客の増加に向け、さまざまな試みが行われました。平成13年には佐々木広美さんが運転士として乗務を開始。岩手初の女性運転士として、全国的な話題となりました。

平成16年には、お座敷列車が導入されました。「こたつ列車」の運転が行われ大好評。人気の企画列車の一つとして、今なお継続されています。

平成21年には25周年を迎え、老朽化していた車両のリニューアルが行われました。経営状況は厳しい状況が続き、経費削減のため、JR車両の定期直通運転が終了するなど、各種施策が実施されました。

旧南リアス線区間

- はらいがわ 弘川駅
- とよまね 豊間根駅
- りくちゅうやまだ 陸中山田駅
- おりかさ 織笠駅
- いわてふなこし 岩手船越駅
- なみいたかいがん 浪板海岸駅
- きりきり 吉里吉里駅
- おおつち 大槌駅
- うのすまい 鶏住居駅
- りょういし 両石駅
- かまいし 釜石駅
- へいた 平田駅
- とうに 唐丹駅
- よしほま 吉浜駅
- さんりく 三陸駅
- ほれい 甫嶺駅
- こいしほま 恋し浜駅
- りょうり 綾里駅
- りくぜんあかさき 陸前赤崎駅
- さかり 盛駅



白井海岸駅〜普代駅



堀内駅〜野田玉川



島の越駅付近



宮古駅「久慈ありす」ヘッドマーク付車両



損待駅〜小本駅



冬の風物詩「こたつ列車」



一の渡駅周辺



久慈駅構内で販売される「うに弁当」